

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-12412

(43)公開日 平成6年(1994)2月18日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 1 C 1/00

識別記号

F
C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平4-55941

(22)出願日 平成4年(1992)7月16日

(71)出願人 592172677

株式会社アトリエリップスティック
兵庫県尼崎市大物町1丁目14番14号

(72)考案者 河村 恭子

兵庫県尼崎市大物町1丁目14番14号 株式
会社アトリエリップスティック内

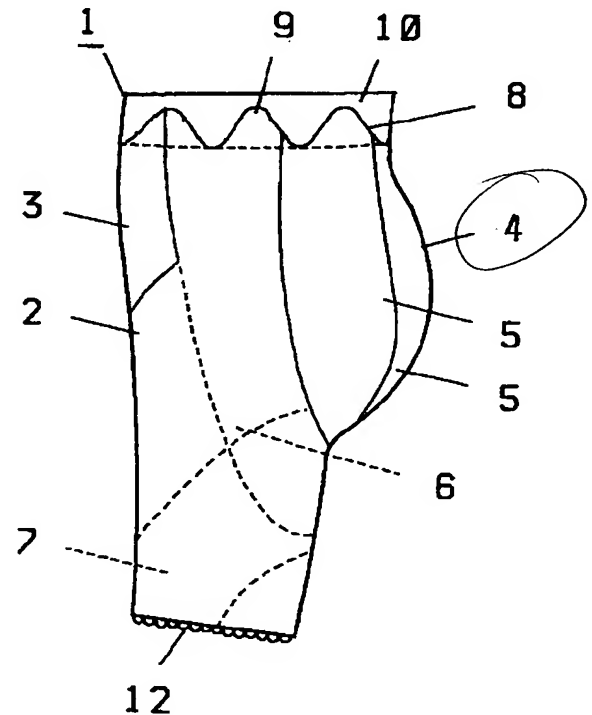
(74)代理人 弁理士 森本 邦章

(54)【考案の名称】 ヒップアップがはかれるガードル

(57)【要約】

【目的】 ヒップを偏平状に押さえつけず、適度にサポートしてヒップアップ効果を高めることにある。

【構成】 ガードル1のヒップ被覆部4にヒップを包み込むように立体的な膨らみをもたせて伸縮布5を縫着している。そして、この伸縮布5のまわりから両腰部にわたってヒップの下辺部をもち上げるように上記ヒップ被覆部4の伸縮布5の弾性力よりも強いパワーネット布6をほぼU字状に縫着するとともに、ヒップ被覆部4の下辺部から両側脚部にわたって上記と同じ弾性性のパワーネット布7をヒップ被覆部4の下辺部で一部重ね合わせて縫着している。

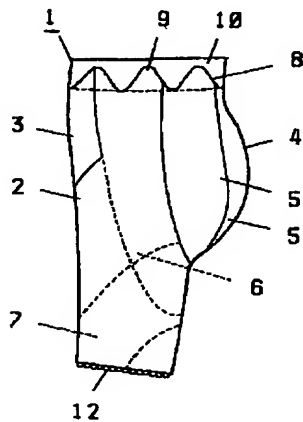


1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ガードルのヒップ被覆部にヒップを包み込むように立体的な膨らみをもたせて伸縮布を縫着し、上記伸縮布のまわりから両腰部にわたってヒップの下辺部をもち上げるように上記ヒップ被覆部の伸縮布の弾性力よりも強いパワーネット布をほぼU字状に縫着しているとともに、上記ほぼU字状に縫着したパワーネット布のヒップ被覆部の下辺部から両側脚部にわたって上記と同じ弾力性のパワーネット布をヒップ被覆部の下辺部で一部重ね合わ*10

【図1】



(2)

実開平6-12412

2

*せて縫着していることを特徴とするヒップアップがはかれるガードル。

【図面の簡単な説明】

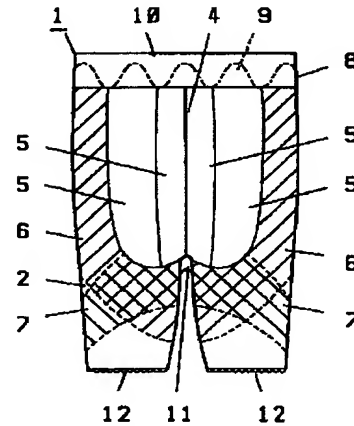
【図1】 本考案の一実施例の側面図、

【図2】 同上の背部の裏面図、

【符号の説明】

1…ガードル	4…ヒップ被覆部	5
…伸縮布		
6、7…パワーネット布	8…上縁部	10
…伸縮ベルト		

【図2】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、ガードルに関し、特に有効にヒップアップがはかれるガードルに関する。

【0002】**【従来の技術】**

ガードルやボディースーツは、お腹を押さえ、ヒップをもち上げて、スタイルをよくするために着用される。

【0003】

従来からガードルやボディースーツについて種々の考案がなされ、かつ市販されて、実際に上記したお腹を押さえ、ヒップをもち上げる機能を発揮している。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、従来のガードルやボディースーツでは、ヒップをもち上げているものの、ヒップの膨らみを殺してヒップを偏平状に押さえ込んでおり、際立ったヒップアップ整形効果を発揮できていない。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、上記のような点に鑑みたもので、上記の課題を解決するために、ガードルのヒップ被覆部にヒップを包み込むように立体的な膨らみをもたせて伸縮布を縫着し、上記伸縮布のまわりから両腰部にわたってヒップの下辺部をもち上げるように上記ヒップ被覆部の伸縮布の弾性力よりも強いパワーネット布をほぼU字状に縫着しているとともに、上記ほぼU字状に縫着したパワーネット布のヒップ被覆部の下辺部から両側脚部にわたって上記と同じ弾力性のパワーネット布をヒップ被覆部の下辺部で一部重ね合わせて縫着していることを特徴とするヒップアップがはかれるガードルを提供するにある。

【0006】**【作用】**

本考案のガードルを着用すると、立体的な膨らみをもたせたヒップ被覆部の伸縮布によって、ヒップを扁平状に押さえ込まずにヒップの自然の膨らみにそってソフトにサポートすることができる。

【0007】

そして、上記伸縮布のまわりから両腰部にわたってヒップの下辺部をもち上げるように上記ヒップ被覆部の伸縮布の弾性力よりも強いパワーネット布をほぼU字状に縫着していることによって、ヒップの膨らみを押さえ込むことなく、下辺部をもち上げるようにサポートしてヒップアップすることができる。

【0008】

しかも、ほぼU字状に縫着したパワーネット布のヒップ被覆部の下辺部から両側脚部にわたって上記と同じ弾力性のパワーネット布をヒップ被覆部の下辺部で一部重ね合わせて縫着していることによって、ヒップの下辺部から大腿部を側脚部へ引っ張るように押さえられて、出るところが出て、引っ込むところがひっこんだヒップアップ整形効果を表出することができ、従来に比して際立ったヒップアップ効果をあげられる。

【0009】

【実施例】

以下、本考案を実施例にもとづいて説明する。図1、図2は、本考案の一実施例のロングガードルを示すものである。ガードル1は、周知のように所要の弾性を有する伸縮布2を縫製して形成しているとともに、図1のように前面側に菱形状等の伸縮性のない前面布3を縫着して腹部を押さえるようにし、後面側のヒップ被覆部4に図1、図2のようにヒップの左右の膨らみにそって包み込むように上記した伸縮布2よりも少し弾性力の弱い伸縮布5を適宜に分割して縫着して形成している。

【0010】

上記ヒップ被覆部4の伸縮布5としては所要の弾性繊維、たとえば双方向に伸縮するトリコネット（商品名）の280～350デニールのものとし、他の部分の伸縮布2を420～560デニールのものとして、ヒップを扁平状に押さえこまずにソフトに包み込んサポートできるようにしている。

【0011】

そして、このヒップ被覆部4の裏面側に、図1、図2のようにヒップの下辺部のまわりから両腰部にかけて、ヒップの下辺部を吊り上げるように脚部で分離したほぼU字状に所定幅のパワーネット布6を縫着している。このパワーネット布6は、上記したガードル1の伸縮布2よりも一層の弾性力を有するものとしている。

【0012】

また、上記ガードル1の裏面には、上記のようにほぼU字状に縫着したパワーネット布6を縫着したヒップ被覆部4の下辺部から大腿部の両側脚部にわたって、図2のように上記と同様のパワーネット布7を上記パワーネット布6のヒップ被覆部4の下辺部で一部重ね合わせるようにして縫着し、ヒップの下辺部から大腿部を押さえて上記したヒップアップ整形効果を一層顕著に表出できるようにしている。

【0013】

このように構成したガードル1の上縁部8は、図1、図2のように波形状の縁飾り9としている。そして、この縁飾り9部に5～7cm幅の伸縮ベルト10を周設し、着用時に上縁部8が腰部に食い込んで腰部の肉がはみ出て段差が生じないように綺麗なウエストラインを形成できるようにしている。11はまち片、12は脚部開口の縁飾りである。

【0014】

しかして、上記のガードル1を着用すると、ヒップ被覆部4に縫着したやや弾性力の弱い伸縮布5でヒップを押さえ込まず、その自然の膨らみを維持してソフトに包み込むようにサポートできる。

【0015】

そして、そのまわりにほぼU字状に縫着したパワーネット布6でヒップの下辺部をもち上げる一方、ヒップの下辺部から両側脚部にわたって縫着したパワーネット布7でヒップの下辺部から大腿部の肉を押さえ込み、引っ込めるべきヒップの下辺部を引っ込めて形のよいヒップアップ整形効果を奏することができる。

【0016】

また、ガードル1の上縁部8を波形状として、広幅の伸縮ベルト10を周設しているため、ガードル1の上縁の伸縮ベルト10の弾性力が上方にいくにしたがって漸次緩やかになって、上縁部8が腰部の肉に食い込むことなく、腰部の肉がはみ出たりして体裁の悪くなるのを防止でき、綺麗なウエストラインを形成できる。そのため、従来併用するのがよくないといわれていたウエストニッパーを併用することもできる。

【0017】

なお、上記した伸縮布、パワーネット布の弾力性は、本考案の趣旨にもとづいて、ヒップの出るべきところを出し、引っ込めるべきところを引っ込めるように適宜に強弱をつけるように決定することができ、また体型に対応して適度の強度とすることができるものである。

【0018】

上記では、ガードルについて説明したが、ウエスト部やバスト部と一体的に形成したボディースーツについても均等的に適用することができる。

【0019】

【考案の効果】

以上のように本考案にあっては、ヒップの膨らみを押さえ込むことなく、適度にサポートできるとともに、ヒップの下辺部を上方側へもち上げるとともに大腿部を締め付け、ヒップの出るべきところを出し、引っ込めるべきところを引っ込めることができ理想的なヒップアップ効果を発揮でき、綺麗なヒップラインを表出することができる。